



桜の見頃  
3月下旬  
～  
4月上旬



水上勉『櫻守』(新潮社刊)

水上勉が美しい言葉で綴る感動作『櫻守』。植物学者で桜の研究と保護に一生を捧げた桜博士・笹部新太郎がモデルとなった小説です。桜をこよなく愛し、戦争の時代に翻弄されながらも、桜を守ることや日本古来種の保護育成に尽力しました。笹部氏の邸宅跡が1981年に公園となり、現・岡本南公園にはササベザクラやオカモトザクラなど8種類30本の桜を見ることができます。

岡本南公園(岡本5-5)  
☎道路公園110番 ☎771-7498 ☎050-3156-2904  
※桜の開花状況は案内できません

## 岡本南公園

桜博士が一生を捧げて守った桜

# 文学で巡る

## 春の東灘



清太と節子が見た景色

## 御影公会堂・石屋川公園



桜の見頃  
3月下旬  
～  
4月上旬

スタジオジブリでアニメ化された名作『火垂るの墓』。野坂昭如が自らの戦争体験をもとに書いた小説です。空襲直後に周辺一帯が焼け野原となっている中、焼けずに残っていた御影公会堂と、その横を流れる石屋川沿いを歩く兄妹の姿が印象的です。防災公園としての役割もある石屋川公園には、戦災の記憶と震災の記憶を次世代に伝えるために記念碑が建てられています。ここは桜の名所にもなっています。

御影公会堂(御影石町4-4-1)  
☎841-2281  
☎841-2282



石屋川公園(御影石町4-9-3)  
☎道路公園110番  
☎771-7498  
☎050-3156-2904



野坂昭如『火垂るの墓』(ポプラ社)

物語の舞台としてよく描かれる東灘。東灘区にある歴史的建造物や名所が登場する文学を3つ紹介します。手に取って読書を楽しんだ後、舞台となった場所に足を運んでみてはいかがでしょうか？



あらゆる文学作品が高い評価を得る谷崎潤一郎の長編作品『細雪』。昭和初期の芦屋と大阪で、性格がそれぞれ異なる4姉妹に巻き起こる出来事を描いた小説です。その登場人物たちが1日の大半を過ごした場所のモデルとなったのが「倚松庵」です。また、実際にこの建物に谷崎潤一郎が7年間暮らしていました。現在は、谷崎潤一郎の作品が数多く展示されており、定期的に講演会なども開催されています。

倚松庵(住吉東町1-6-50)  
☎842-0730  
※開館は土曜、日曜のみ  
(4月より祝日も開館)



谷崎潤一郎『細雪』(新潮社刊)

## 倚松庵

作品の舞台  
作者が実際に暮らした

